



自分の命は自分で守る ～危機回避能力の育成をめざして～



千葉県白子町立南白亀小学校
教頭 高山 英治

1 はじめに

本校は、房総半島の東側、九十九里浜に面し、温暖な気候と豊かな自然に恵まれ、学校周辺は緑豊かな田園地帯が広がっています。全校児童 131 名、学級数 8 学級の小規模校です。

白子町は、先の東日本大震災において大きな被害はなかったものの、近隣の市町村では、津波により床上浸水などの被害を受けました。また、震災当日は、学校近隣の住民が学校に自主的に避難に訪れ、うち 70 名程度が停電の中、翌朝まで体育館で過ごさなければならぬほど、地域住民に大きな不安をもたらしました。本校は、海岸から 2 km ほどしか離れていません。大津波警報が発令された場合は、本校屋上が児童さらに地域住民の避難場所となります。

2 取組の概要

本校では、平成 25 年に千葉県教育委員会「命の大切さを考える防災教育公開事業」モデル校の指定を受け、「地震と津波」という課題で、保護者や地域と連携して、地震後発生する津波災害に備え、児童を迅速に高所避難させ、災害から命を守るための防災教育に取り組んできました。

現在も、授業において、命を大切にすることを育てるために、生命尊重をねらいとした道徳授業や、一人ひとりの防災意識を高め、「自分の命は自分で守る」ことの大切さに気づかせていく学級活動の授

業を実施しています。防災事業としては、毎月 1 回の避難訓練をはじめ、緊急時引き渡し訓練や町合同防災訓練に参加するなど、いろいろな場面を想定した避難訓練を数多く経験させるよう努めています。

3 取組の実際

毎月 1 回の避難訓練では、主に「地震・津波」を想定した訓練を実施しています。津波が発生した場合、本校屋上が児童・地域の避難場所となっていることから、初期行動→グラウンドへ第 1 次避難→屋上へ第 2 次避難の流れで、訓練を行います。本校では、町から支給されたライフジャケットを全校児童・教職員用に常備し、訓練の際には、素早く着用できることも訓練の一環として行っています。



屋上への避難

6 月には、下校途中に地震・津波が発生した場合を想定した避難訓練を実施しています。10 月には、近隣の保育所との合同避難訓練も実施しています。6 年生が園児と手をつないで階段を上がり、屋上まで避難します。また、町主催の地域

住民を対象とした防災訓練にも、積極的に参加するよう児童に働きかけています。



保育所との合同訓練

ここでは、紙面の都合上、「下校途中の避難訓練」を実践例として紹介します。

<主な流れ>

- ①集団下校の途中で地震が発生し、児童は初期行動を取る。
- ②大津波警報発令を聞いて、その場から学校の屋上に第2次避難をする。
- ③地震発生・大津波警報発令の児童への伝達は、引率した教職員が伝える。また、大津波警報解除後に、学級ごとに保護者に児童を引き渡す。



下校途中の初期対応



引き渡し訓練

4 これまでの成果

- 実施したさまざまな防災活動により、児童の防災意識が高まりました。また、有事に対する備えが大切なことがわかり、いろいろな場面に応じた行動の仕方も学年に応じて身につけることができています。
- 自然災害から自分の命を守る意識を児童・職員・家庭・地域の中で高めることができました。
- 海岸沿いの町であるからこそ、命を守ることの大切さを一人ひとりが認識し、実践していくことができています。

